

2023年3月期 決算短信補足資料

2023/5/12

株式会社ニッスイ



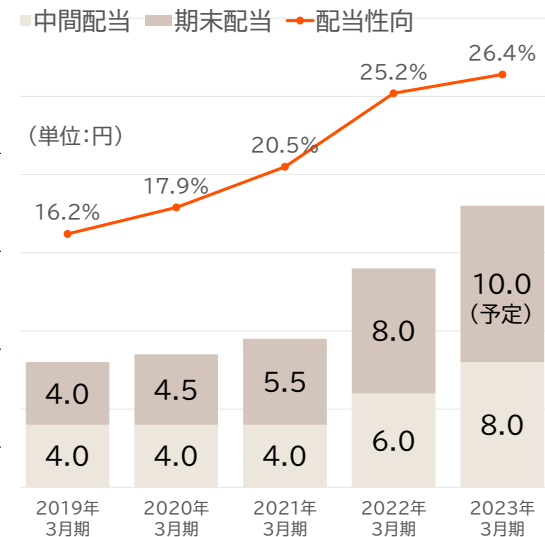
2023年3月期 決算概況



2023年3月期 サマリー

- ・売上高10%増収、当期純利益22%増益でいずれも過去最高を更新。11月発表の修正計画値に対しても売上高・各段階損益とも全て上回る結果となった。
- ・期末配当を2円増配し、年間18円(前期比+4円)とする予定。

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	対前期比 増減		2023年3月期 計画 (11/2公表)	対計画比 増減
			増減	増減率(%)		
売上高	6,936 億円	7,681 億円	744 億円	10.7	7,500 億円	181 億円
営業利益	270 億円	244 億円	▲25 億円	▲9.6	225 億円	19 億円
経常利益	323 億円	277 億円	▲45 億円	▲14.2	255 億円	22 億円
当期 純利益	172 億円	212 億円	39 億円	22.9	200 億円	12 億円



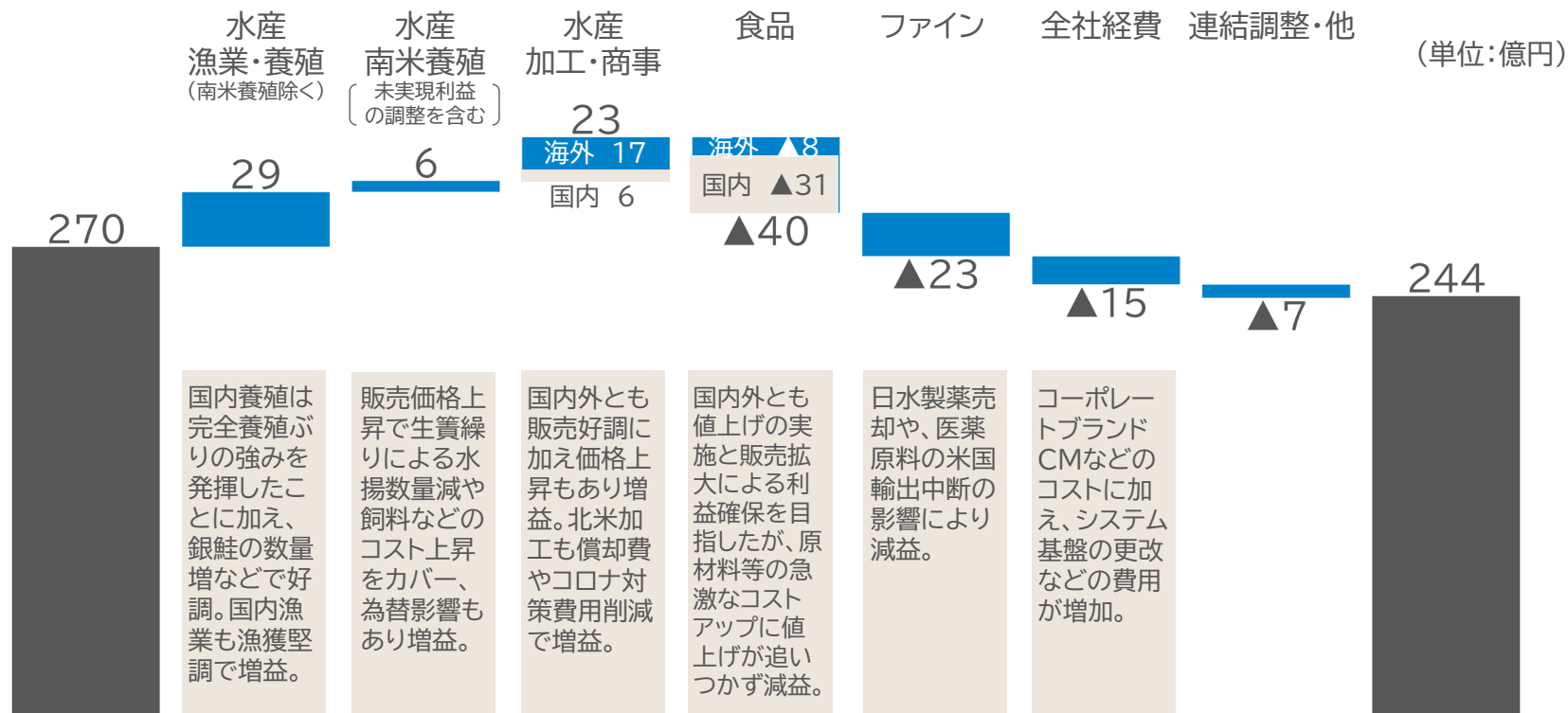
2023年3月期 セグメント別概況

水産・食品が値上げや為替影響で大幅増収。
 ファインケミカルは主として日水製薬売却による減収(約80億円)が影響。

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	6,936	7,681	744	10.7
水産事業	2,877	3,283	405	14.1
食品事業	3,286	3,820	534	16.3
ファインケミカル事業	340	251	▲89	▲26.3
物流事業	157	154	▲2	▲1.8
その他	274	171	▲102	▲37.4
営業利益	270	244	▲25	▲9.6
水産事業	127	185	58	46.0
食品事業	154	114	▲39	▲25.8
ファインケミカル事業	40	17	▲23	▲57.4
物流事業	20	15	▲4	▲21.9
その他	10	7	▲2	▲24.4
全社経費	▲81	▲95	▲14	17.8
経常利益	323	277	▲45	▲14.2
親会社株主に帰属する当期純利益	172	212	39	22.9

2023年3月期 主な営業利益増減要因(前期比)

水産が大幅増益も食品のコストアップによる減益やファインケミカルの減益をカバーしきれず。コーポレートブランド浸透コストやシステム投資で全社経費は増加。



2023年3月期 連結貸借対照表(前期末比)

棚卸資産、短期借入金が増加する一方、上場子会社の日水製薬や政策保有株式の売却を進めた。

()内の数字は前期末比増減		
流動資産	3,043	(+392)
現金及び預金	103	(▲34)
受取手形及び売掛金	956	(+53)
棚卸資産(在庫)	1,758	(+318)
固定資産	2,446	(+40)
有形固定資産	1,490	(+36)
無形固定資産	140	(+27)
投資その他の資産	815	(▲24)
総資産	5,490	(+432)
流動負債	1,987	(+209)
支払手形及び買掛金	501	(▲1)
短期借入金	1,006	(+174)
未払費用	258	(+6)
固定負債	1,296	(+103)
長期借入金	1,049	(+99)
純資産	2,206	(+120)
自己資本	2,168	(+270)
自己資本比率		
'22/3	37.5%	⇒ '23/3 39.5%

(単位:億円)

<棚卸資産>
インフレ影響による
原料や商品在庫価格
の上昇で棚卸資産が
増加

<投資その他の資産>
政策保有株式の売却で
投資有価証券が減少

2023年3月期 連結キャッシュフロー(前期比)

人流回復に伴う活動量増で運転資本が増加し営業CFは前期比で大きく減少。

(単位: 億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	271	292	21
・減価償却費(のれん償却含む)	199	207	7
・運転資本	▲ 125	▲ 355	▲ 229
・法人税等の支払額	▲ 90	▲ 124	▲ 34
・その他	35	13	▲ 21
営業活動によるCF	291	33	▲ 257
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 184	▲ 227	▲ 42
・その他	12	2	▲ 10
投資活動によるCF	▲ 172	▲ 225	▲ 53
・短期借入金の増減額	58	163	105
・長期借入金の増減額	▲ 120	71	191
・その他	▲ 49	▲ 60	▲ 10
財務活動によるCF	▲ 112	174	286
現金及び現金同等物の期末残高	156	142	

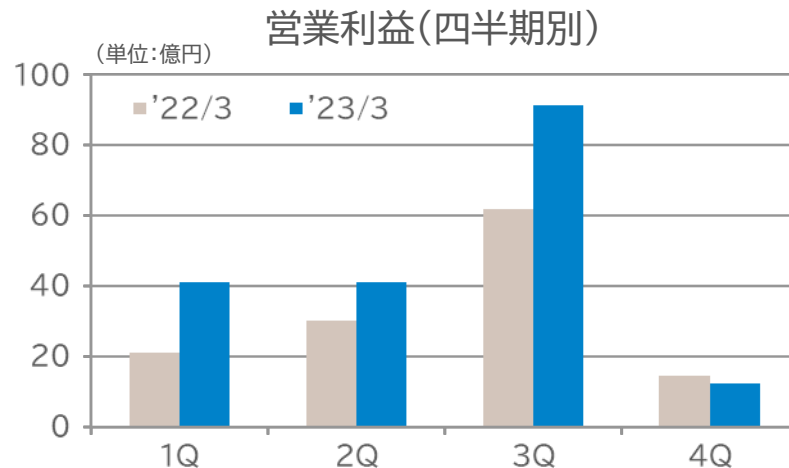
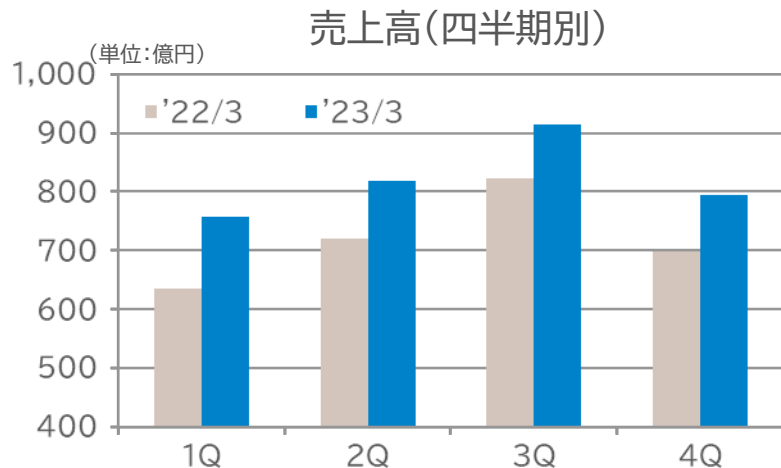
<営業CF－運転資本>
インフレ影響で原料や商品在庫価格が上昇し、支出が増加

<投資CF－設備投資額>
国内食品工場の維持更新や南米養殖の生簀関連への投資、国内漁業の船舶能力増強などで増加

2023年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

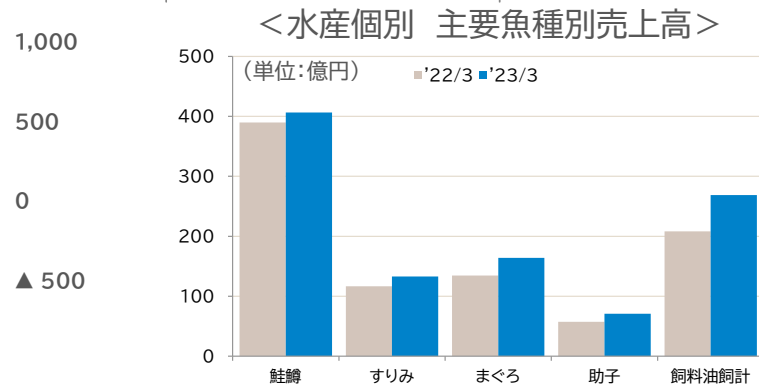
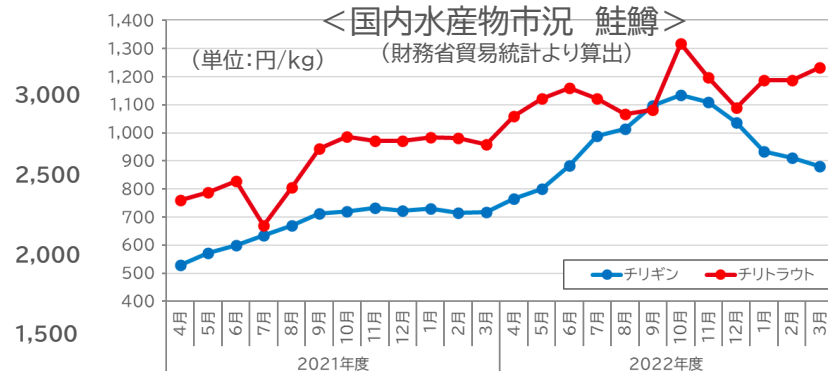
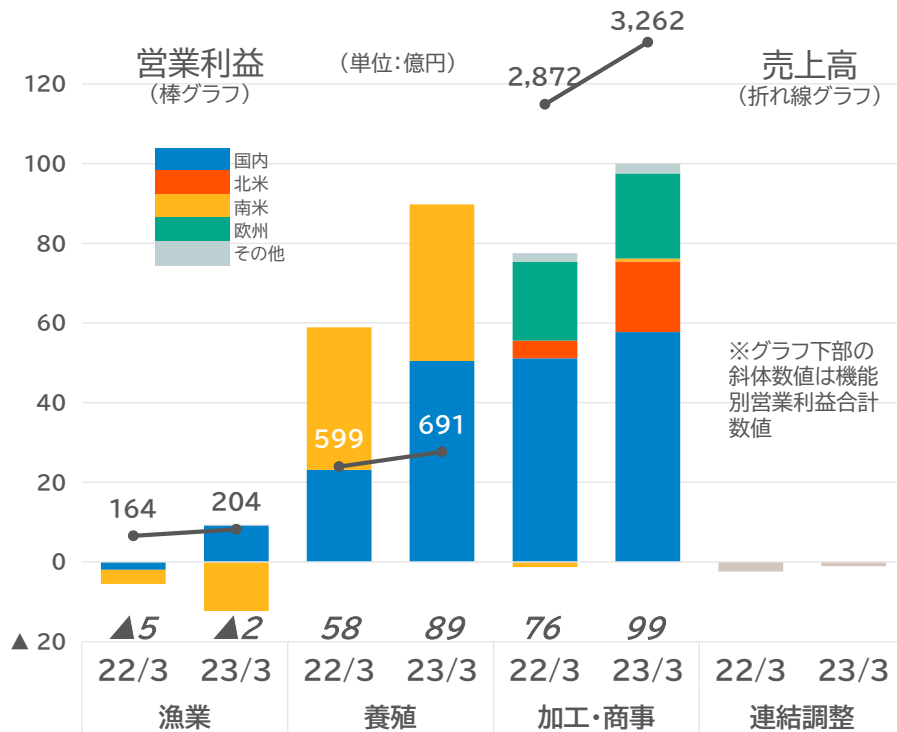
販売堅調に加え国内養殖事業の改善もあり大幅な増収増益を実現。

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,877	3,283	405	14.1
営業利益	127	185	58	46.0



2023年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

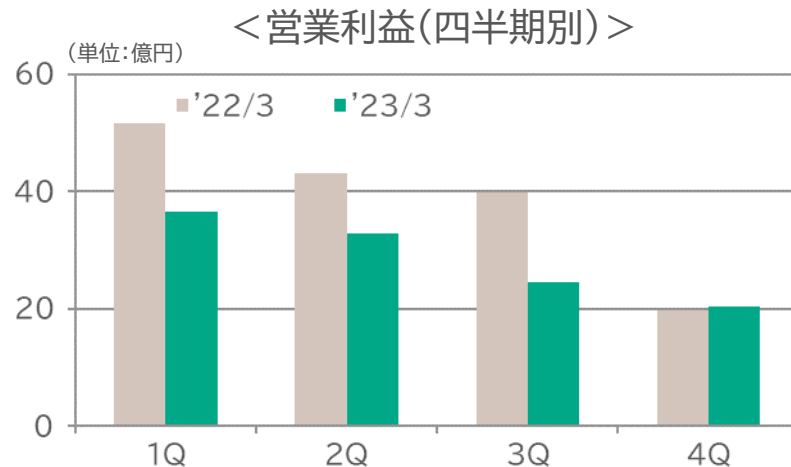
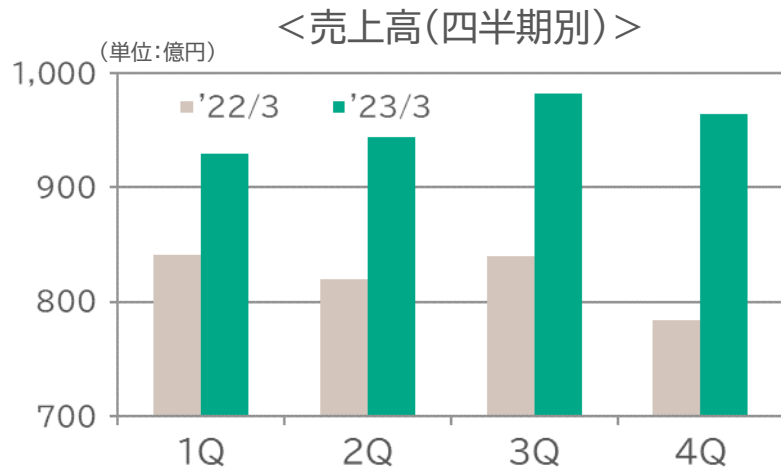
- ・養殖は完全養殖ぶりの強みを発揮したことや銀鮭の拡大、まぐろや南米鮭鱒も寄与し増益。
- ・加工商事も販売が好調だったうえ、北米の経費削減などもあり大幅増益。



2023年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

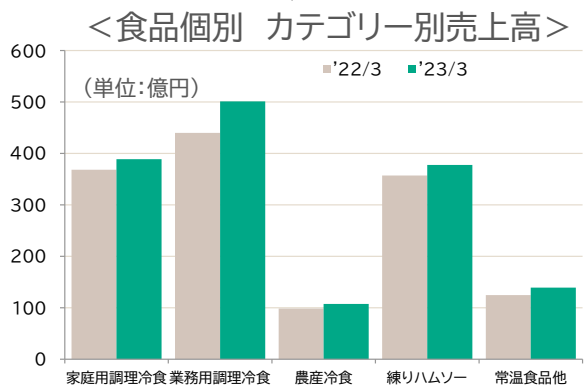
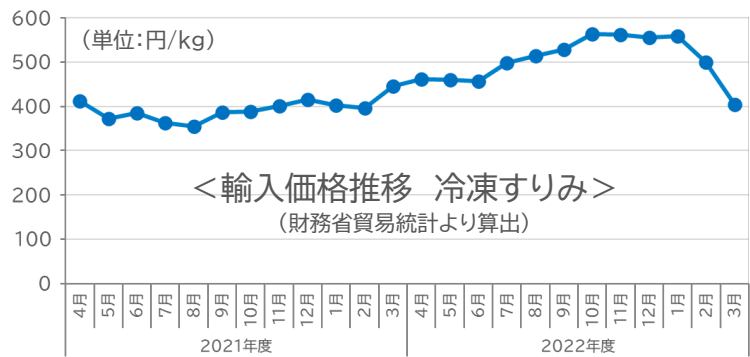
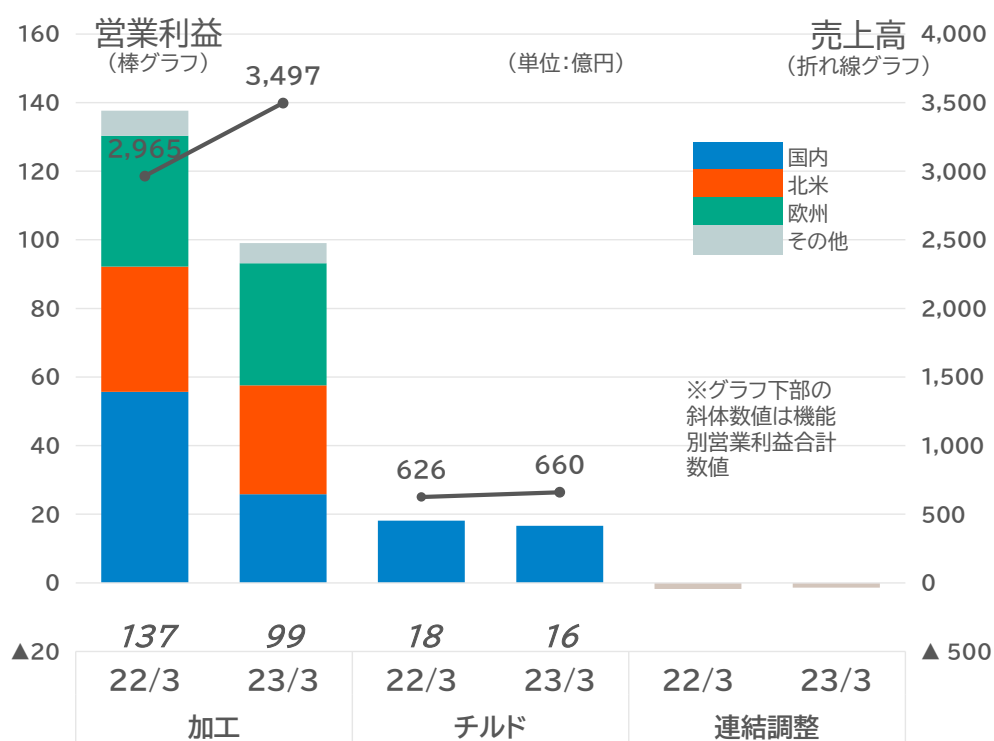
欧州のエリア拡大や米国家庭用えび商品の拡大に加え、値上げや円安影響で大幅な増収も、原材料・エネルギーコスト上昇や急激な為替変動に対し値上げや販売拡大が追いつかず減益。

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,286	3,820	534	16.3
営業利益	154	114	▲39	▲25.8



2023年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

- ・欧米は家庭用で値上げ後も販売好調を維持。北米は業務用のQSR向け販売は前年割れ。
- ・日本はコスト上昇に値上げや販売拡大が追いつかず苦戦も、家庭用・業務用ともに増収。



コストアップ・値上げ 2022年度 年間実績(2021年度比)

欧米はコストアップを概ね吸収も、日本は値上げが追い付かず。

2021年前期比		日本		北米		欧州		アジア		合計	
コストアップ	原料コスト	▲75	億円	▲112	億円	▲43	億円	▲1	億円	▲234	億円
	物流・電力料・他	▲17	億円	▲12	億円	▲22	億円	▲0	億円	▲53	億円
	合計	▲93	億円	▲125	億円	▲66	億円	▲1	億円	▲287	億円
	(前回見直し)	(▲114)	億円	(▲125)	億円	(▲66)	億円	(▲3)	億円	(▲310)	億円
値上げ効果・販売増力		65	億円	123	億円	66	億円	▲1	億円	253	億円
(前回見直し)		(82)	億円	(123)	億円	(66)	億円	(▲0)	億円	(271)	億円
コストアップ影響額		▲28	億円	▲2	億円	▲0	億円	▲2	億円	▲34	億円
(前回見直し)		(▲32)	億円	(▲2)	億円	(▲0)	億円	(▲3)	億円	(▲39)	億円

値上げ実施状況

国内: 22年2・3月、22年7・8月、23年2・3月 練り・ハムソーセージ、冷凍食品、常温食品

海外: 欧州 22年5・11月、北米 家庭用 22年2・7月、業務用 随時

前回公表から集計方法を変更しています。

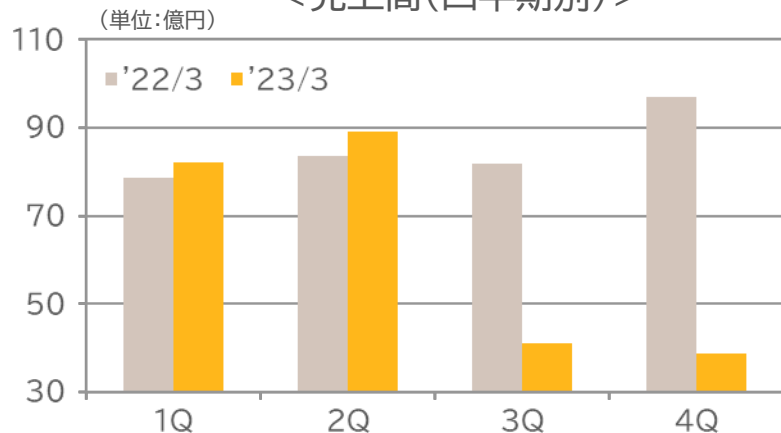
「値上げ効果・販売増力」に含めていたコストアップ・値上げに関連の無い費用を除外(影響軽微)
 (日本) チルド事業を含めていたが食品加工事業に限定
 (北米) 「値上げ効果・販売増力」のマイナス要素に含めていた製造委託費を「原料コスト」に振替

2023年3月期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前期比)

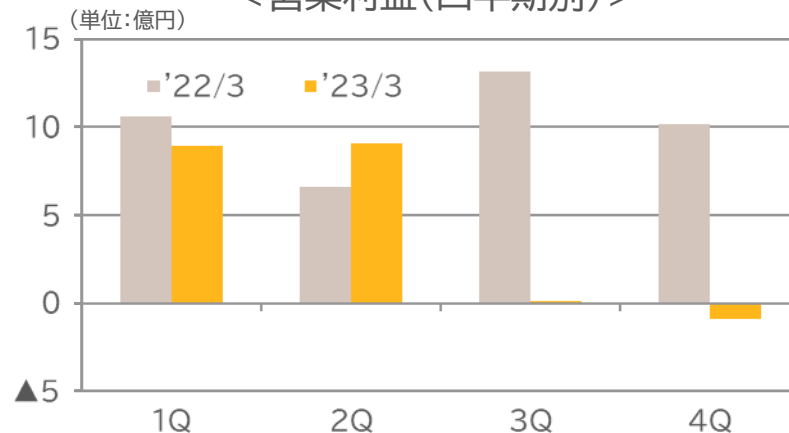
■ 日水製薬売却(9月)による影響に加え、医薬原料の米国向け輸出が中断したこともあり減収減益。

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	340	251	▲89	▲26.3
営業利益	40	17	▲23	▲57.4

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>

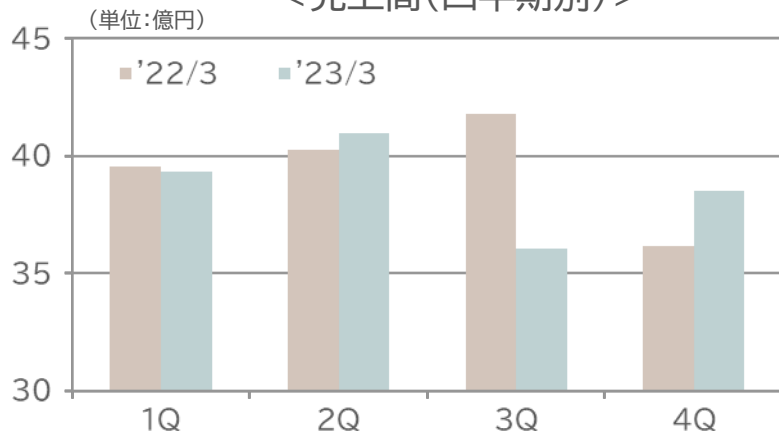


2023年3月期 物流事業 売上高・営業利益(前期比)

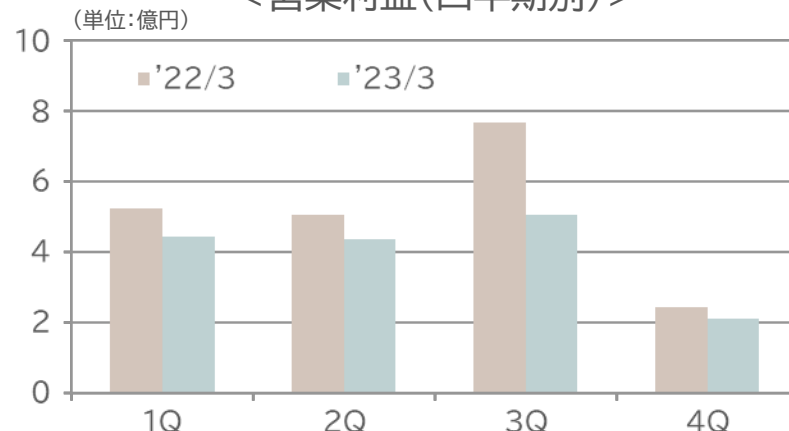
通関事業が堅調に推移するも、荷動き低調による入在庫料収入の減少や電力料他コストアップの影響で減収減益。

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	157	154	▲2	▲1.8
営業利益	20	15	▲4	▲21.9

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>



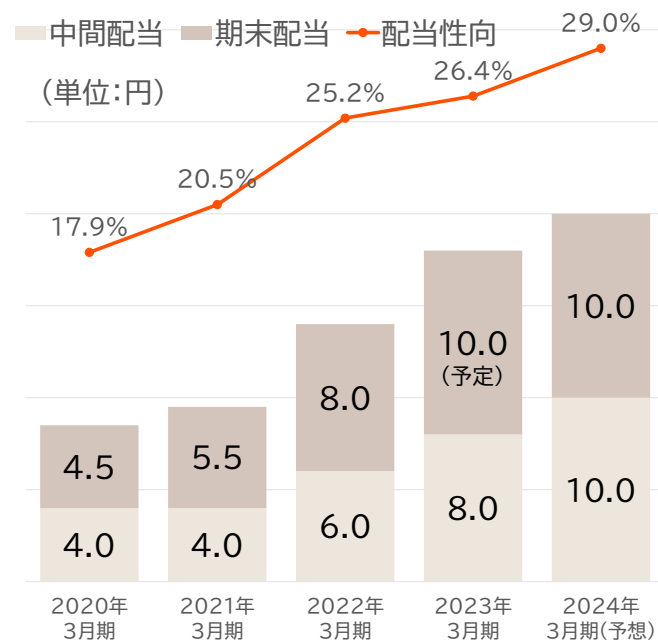
2024年3月期 計画



2024年3月期 計画 サマリー

- ・水産の苦戦が予想されるも、食品が値上げ効果と販売拡大やすりみ価格の調整などコストダウンで増益。
- ・当期純利益の2期連続最高益を含め各段階損益とも増益計画。配当は年間20円(前期比2円増配)を予定。

	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	対前期比 増減		中計目標 2025年3月期 計画
			増減	増減率(%)	
売上高	7,681 億円	8,000 億円	318 億円	4.1	7,900 億円
営業利益	244 億円	270 億円	25 億円	10.3	320 億円
経常利益	277 億円	290 億円	12 億円	4.4	350 億円
当期 純利益	212 億円	215 億円	2 億円	1.3	225 億円



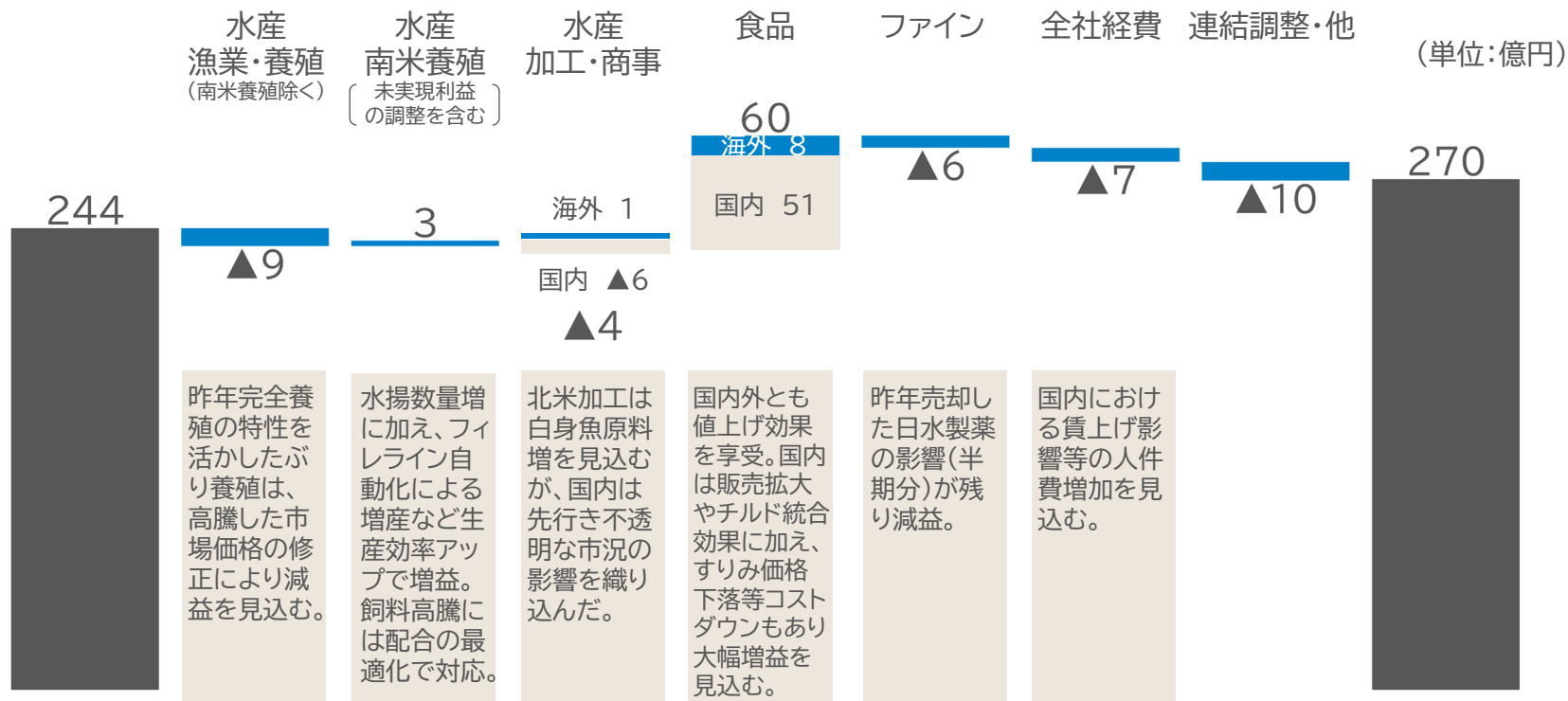
2024年3月期 計画 セグメント別概況

水産市況の変調リスクあるも、食品のマーケット拡大に加え値上げ効果を見込み、初めて8,000億円の売上高を計画。ファインケミカル事業は日水製薬売却の影響(約90億円)が響き減収。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	7,681	8,000	318	4.1
水産事業	3,283	3,173	▲110	▲3.4
食品事業	3,820	4,275	454	11.9
ファインケミカル事業	251	177	▲74	▲29.5
物流事業	154	178	23	14.9
その他	171	197	25	14.6
営業利益	244	270	25	10.3
水産事業	185	173	▲12	▲6.9
食品事業	114	171	56	49.6
ファインケミカル事業	17	10	▲6	▲39.2
物流事業	15	12	▲3	▲24.7
その他	7	7	▲0	▲1.3
全社経費	▲95	▲104	▲8	8.4
経常利益	277	290	12	4.4
親会社株主に帰属する当期純利益	212	215	2	1.3

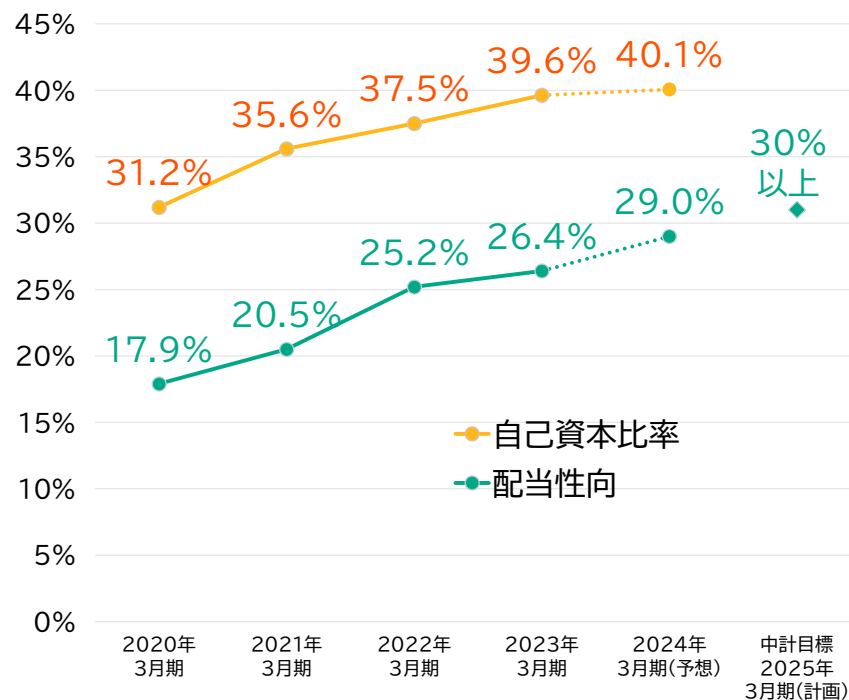
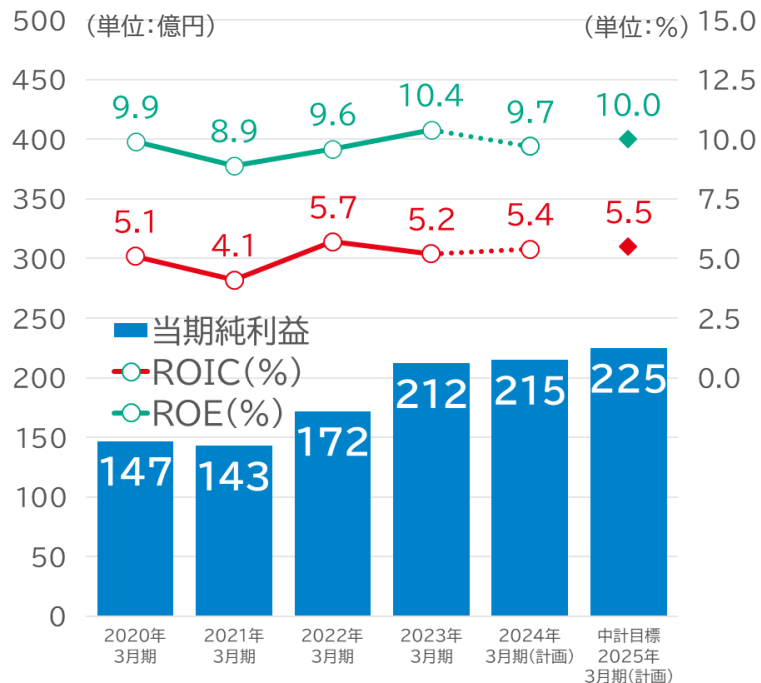
2024年3月期 計画 主な営業利益増減要因(前期比)

値上浸透の食品が、市況の変化による苦戦が見込まれる水産や子会社売却で減益のファインケミカルをカバーする計画。



財務体質と株主還元

- 当期純利益のレベルが切り上がり財務体質も改善。株主還元も一定のレベルに達してきた。
- 自己資本比率が改善する中、ROEは10%前後のレベルをキープ。



ROIC向上の取り組みを継続していく。

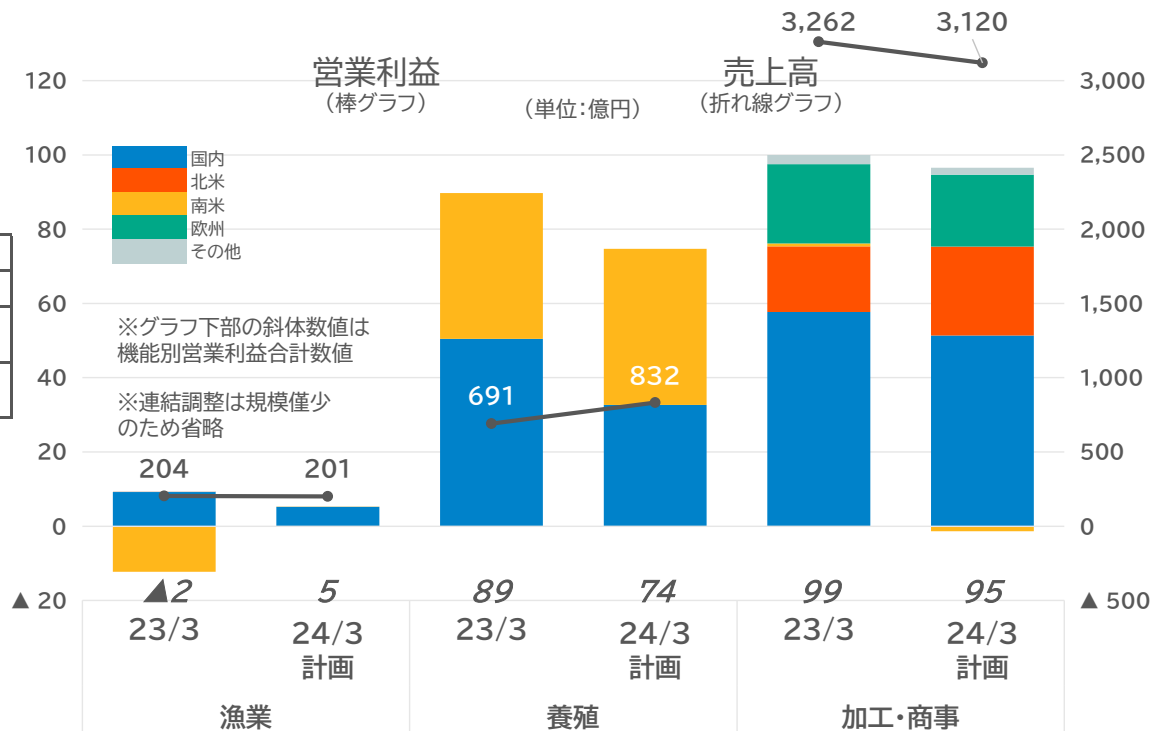
ROIC
向上 =

	水産	食品	ファイン
税引後営業利益	<p><u>(拠点拡大)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 国内銀鮭養殖拡大 イギリスでの宅配事業参入で、需要が高まる水産加工品をEコマースで展開し顧客接点を拡大 <p><u>(高付加価値化)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 食材化を進め、高粗利品を拡大 <p><u>(効率化・最適化)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 養殖会社間の効率運営でコスト削減 	<p><u>(国内)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 独自技術を生かした高付加価値・健康商品の拡売 チルド統合効果の最大化と食品事業への展開 <p><u>(北米・欧州)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 北米は商品カテゴリー、欧州は販売エリアを拡大 	<p><u>(医薬品原料の海外展開)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 欧州向けの申請を完了 <p><u>(MSC認証魚油取扱いを計画)</u></p> <p><u>(物販・通販の国内販売)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> EPA、DHA商品の品揃えの拡売 速筋タンパクパウダーを使った商品開発で販売チャネル拡大
投下資本	<p><u>(在庫削減)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 在庫回転を高め運転資本圧縮 	<p><u>(国内)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> チルド・食品工場の最適化 アイテム削減 	<p><u>(生産効率向上)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 国内生産工場における在庫管理の徹底

2024年3月期の取り組み：水産事業

養殖事業の規模拡大に取り組むとともに、価格変動の度合いが高い水産市況を見据え、在庫マネジメントの強化や養殖会社間の効率運営に取り組む。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,283	3,173	▲110	▲3.4
営業利益	185	173	▲12	▲6.9



2024年3月期の取り組み：水産事業(国内)

▶ 養殖事業の取り組み

一 既存事業の強化・高収益化

(銀鮭)事業化後2年目となる大槌サーモンの拡大(前期比で約2.5倍)



一 生産性の革新・オペレーション改善

(ぶり)早期水揚げを進め、市況の変調や飼料高騰影響などの影響を軽減。

(まぐろ)飼料の共同購入などの2社協働の進化。短期畜養まぐろを増産。

一 養殖魚種の拡大

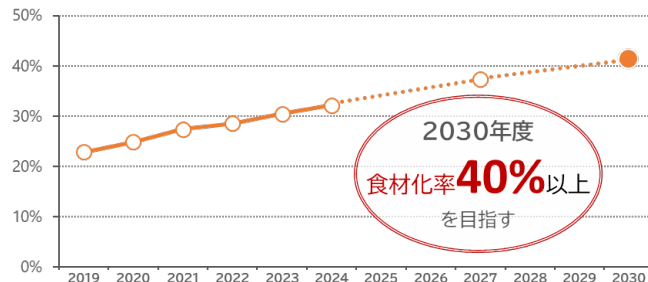
(えび)事業化を確実に実現する。

顕娃実証試験施設
バナメイエビ閉鎖循環式養殖



▶ 加工商事事業の取り組み

一 (商事)相場の影響を軽減する体制に向け食材化商品の比率を40%以上に。



一 (加工)水産流通の保管・加工・ピッキングを一括受託する「集約型流通事業」を開始し、当社グループの水産物取扱拡大と食材化の推進につなげる。



流通の一連の流れをプラットフォームに集約

2024年3月期の取り組み：水産事業(海外)

▶ 漁業・養殖事業の取り組み(南米)

一 (養殖)高付加価値品の拡大・収益性向上

- フィレ製造ライン自動化により、省人化する人員を付加価値品製造ラインに振り向け収益力アップ。
- 導入した設備を活用し複数の飼料を最適に組み合わせコストダウン。



一 (漁業)漁獲増とコスト低減で収益性向上

網口を広げる改良により漁獲量増に加え、前年度に実施した固定資産の減損による減価償却費の減少や修繕費の絞り込みによりコスト削減。



▶ 加工・商事事業の取り組み(北米・欧州)

- 一 (北米加工)資源回復による増産効果、付加価値品比率の拡大で収益力アップ。
- 一 (商事)北海道産ホタテなど日本の水産物の海外展開の拡大・加速。在庫管理を徹底。
- 一 (欧州商事)高品質な水産物の需要の高まりに、昨年買収した水産品宅配会社の配送網や顧客トレンド把握などの強みを取り込み、販売拡大を狙う。




REGAL FISH

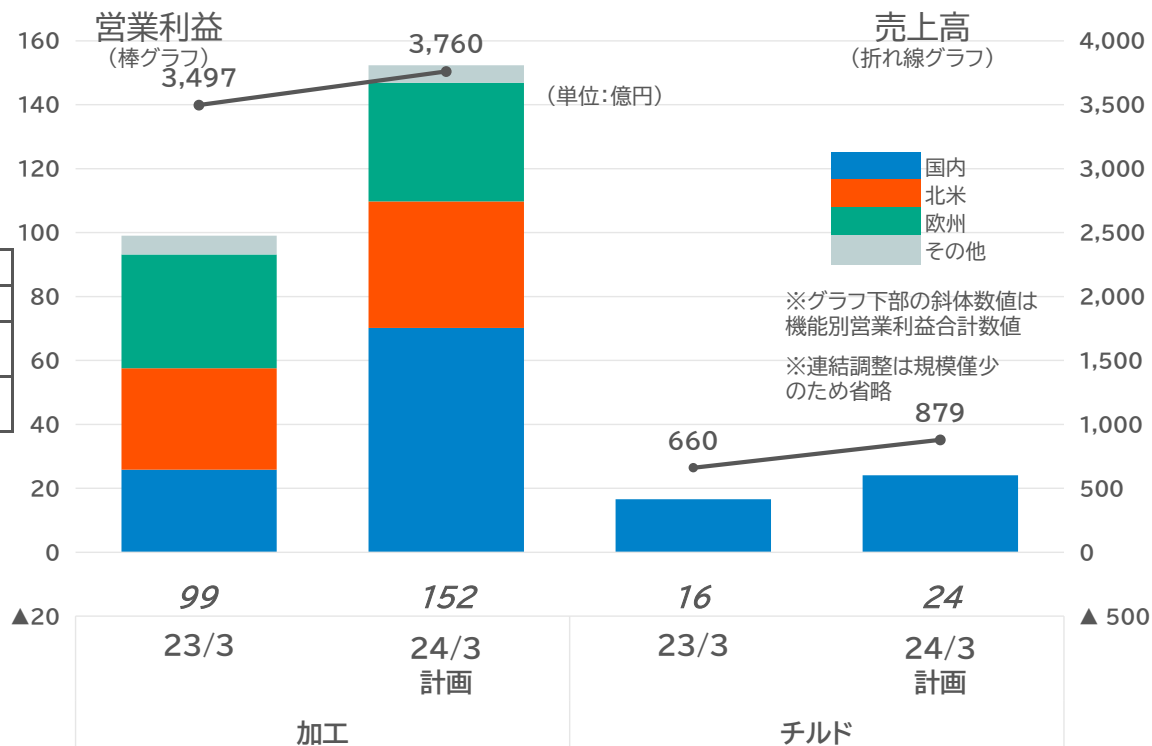


オーブンに入れるだけで調理ができる付加価値品や、具材とソースがセットになったミールキットなどを展開する

2024年3月期の取り組み：食品事業

健康・個食・簡便ニーズに対応した商品を拡大し収益性向上。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,820	4,275	454	11.9
営業利益	114	171	56	49.6



コストアップ・値上げ 2023年度 年間見通し(2022年度比)

値上げ効果により、収益力を改善。

2022年前期比		日本		北米		欧州		アジア		合計	
コストアップ	原料コスト	▲63	億円	▲51	億円	▲18	億円	▲0	億円	▲135	億円
	物流・電力料・他	▲8	億円	▲4	億円	▲25	億円	▲0	億円	▲39	億円
	合計	▲71	億円	▲56	億円	▲44	億円	▲1	億円	▲174	億円
値上げ効果・販売増力※		124	億円	63	億円	42	億円	1	億円	232	億円
差引影響額		52	億円	7	億円	▲1	億円	▲0	億円	58	億円

※22年度実施した価格改定の影響を織り込んでいます。

集計方法を変更しています。

「値上げ効果・販売増力」に含めていたコストアップ・値上げに関連の無い費用を除外(影響軽微)
 (日本) チルド事業を含めていたが食品加工事業に限定
 (北米) 「値上げ効果・販売増力」のマイナス要素に含めていた製造委託費を「原料コスト」に振替

2024年3月期の取り組み： 食品事業(海外)

▶ 販売カテゴリー拡大(北米)

一 販売拡大による生産効率アップに加え、値上げ効果もあり安定した収益を確保する。

(家庭用)健康訴求商品とえびカテゴリー商品拡大

(業務用)白身魚カテゴリー商品とアジア商品拡大

<家庭用冷凍食品>



脂質を半分に抑えた商品

<業務用冷凍食品>



白身魚商品やアジア商品
(シュウマイなど)を拡大

▶ 販売エリア拡大(欧州)

一 昨年のM&Aにより、エリア拡大に対応する生産体制は整いつつある。

(フランス)シテマリンの生産能力アップによる拡大

(イギリス)冷凍機能力増強など生産ライン整備が進んだ



チルド白身魚商品を
さらに拡大



2024年3月期の取り組み： 食品事業(国内)

▶ ニッスイ特有の技術と商品で健康課題の解決に取り組む

ー 健康領域商品の拡大

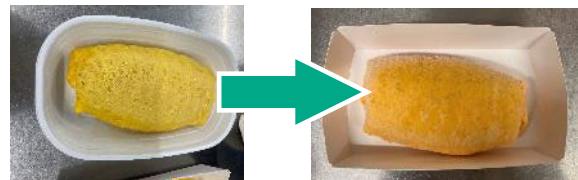
魚・素材の機能性研究→
「速筋タンパク」「EPA」「減塩技術」



「速筋タンパク」は
様々なアプローチに
より認知と販売の
拡大を図る

▶ 資産効率と社会課題への対応で収益力アップ

- ー 受注業務のDX化やRPA活用などによるオペレーションコスト削減。
- ー アイテム削減や脱トレー化・紙トレー化などを進め、環境への配慮と収益性の改善を両立させる。



冷凍食品のオムライス
→プラスチックトレー
から紙トレーに

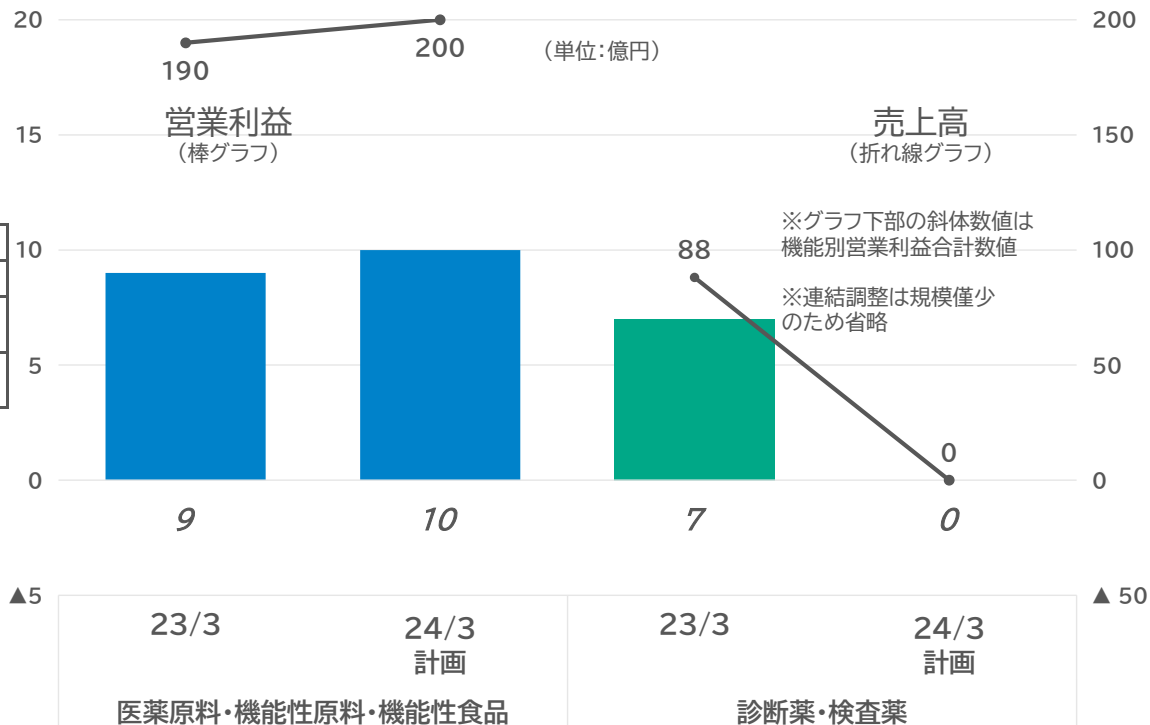


練り製品(一部)
→トレーレス化

2024年3月期の取り組み：ファインケミカル事業

医薬原料の欧州展開を急ぐ。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	251	177	▲74	▲29.5
営業利益	17	10	▲6	▲39.2



2024年3月期の取り組み：ファインケミカル事業

▶ 海外の取り組み

一 (医薬原料)

欧州:EMA(欧州医薬品庁)へ申請準備。

一 (機能性原料)原料に高い品質レベルを求める顧客に対応するため、スペインの会社と協働で認証魚油の取扱いを計画中(MSC認証)。EUで販売拡大を進める。



スペインの魚油生産工場



▶ 国内の取り組み

一 (医薬原料) EPA新剤型の処方拡大による生産拡大に期待。

一 (機能性原料)生産工場における在庫管理の徹底

一 (通販・物販)新商品の投入でバリエーション拡大、ドラッグストアやディスカウントストアとの協働による小売市場への展開を進める。



←2023年3月発売の
DHAアーモンド豆乳

更なる商品展開
を準備中 →



速筋タンパクのスポーツ系粉末
飲料やスープなどを展開中

設備投資計画(2022年度実績+2023年度計画)

養殖を含めた資源アクセスの強化や海外事業などの成長分野に積極的に投資。

▶ 水産事業(約250億円)

- 南米養殖(68億円)高付加価値品の増産に向けたライン増強投資や海面養殖施設の維持更新
- 国内養殖(27億円)オペレーション効率化投資を実施
- 漁業(75億円)巻き網漁船能力増強投資

▶ 食品事業(約210億円)

- 欧州・北米(108億円)販売エリアを拡大している欧州で生産ライン自動化などの生産性向上投資を実施

▶ M&A枠(約200億円)

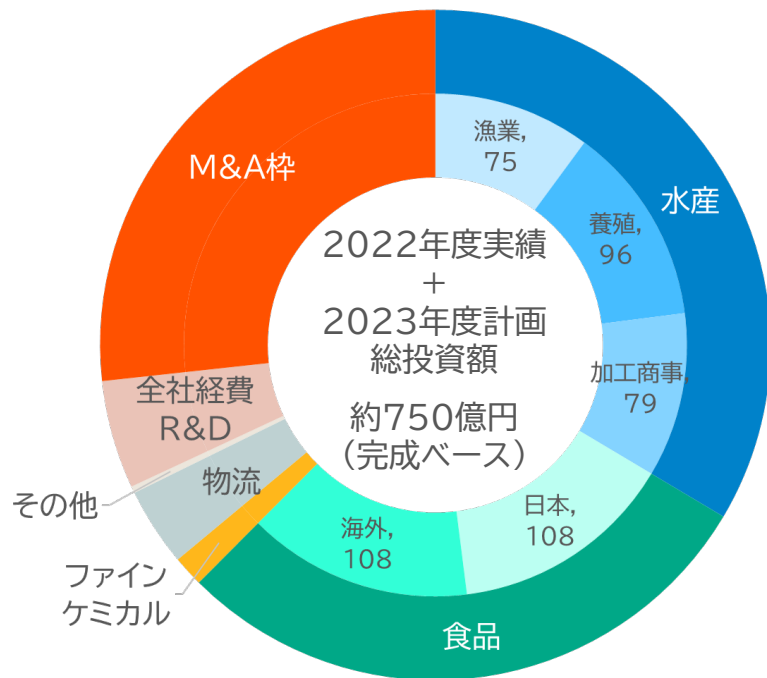
- 海外を中心としたM&Aを想定

▶ その他

- 健康関連商品として植物性たんぱく商品の研究開発などへ投資



カニカマ風/畜肉風の植物性食品を作製する研究開発を継続中



3つの価値(社会・人財・環境)の創出に向け、進捗が遅れている項目は取り組みを強化

提供価値	重点テーマ	目標	基準年度 単位	2030年度 目標	2024年度 目標	2022年度 実績	2023年度計画
気候変動と 海洋環境への 貢献	CO2排出量削減	CO2排出量削減 (Scope1,2)	2018年度 総量	30%	10%	12.7%	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電設備の導入(国内外の生産拠点) 事業所の省エネ、高効率設備への更新、再エネ由来電力への切り替え、モーダルシフトの拡大など
	プラスチック削減	プラスチック使用量削減	2015年度 原単位	30%※	10%※	統合報告書 にて開示予定	<ul style="list-style-type: none"> 商品設計への反映 (紙トレー化、トレーレス、バイオマスプラ等)
資源の持続 可能性への 貢献	水産資源の持続可能性	持続可能な調達比率	-	100%	80%	次回調査結果 2024年 開示予定	<ul style="list-style-type: none"> 第3回水産資源調査の実施
	責任ある調達(人権)	1次サプライヤーアセスメント比率	-	100% (主要な1次サブ ライヤー)	100%※ (ニッスイ個別)	22%	<ul style="list-style-type: none"> 1次サプライヤーを対象にした自己評価アンケートの実施
健康課題の 解決	健康領域商品の拡大	当社指定の健康領域商品 売上	2021年度	3倍	1.3倍	1.0倍	<ul style="list-style-type: none"> 機能性食品の新商品開発(EPA・DHA) 速筋タンパクのプロモーション強化
多様な人財 の活躍	従業員エンゲージメント	従業員エンゲージメント スコア向上	2021年度	基準年度比 20%UP※	基準年度比 10%UP※	基準年度比 1%UP	<ul style="list-style-type: none"> ハイスコア部署の取り組み(成功事例)についての全社共有 エンゲージメント課題の意見交換会の実施(全部署)
	女性活躍	女性幹部職比率	-	20%※	10%※	6.8%	<ul style="list-style-type: none"> 「採用」「定着」「育成」の各ステージに応じOJT/OFF-JTの取り組みを通して、幹部職員までのパイプラインを強化。

バリューチェーン上の人権課題の予防・低減に向けたアセスメントを実施

サプライヤー



【2022年度の取り組み】

2022年6月にサプライヤーガイドラインを改定。
ニッサイの全ての1次サプライヤーへの案内完了。

【2023年度の取り組み】

1次サプライヤーを対象に新ガイドラインに沿ったSAQ
(自己評価アンケート)を実施予定。

自社グループ内



当社グループ内の外国籍従業員
雇用事業所(29箇所)を
対象に労働環境調査を実施

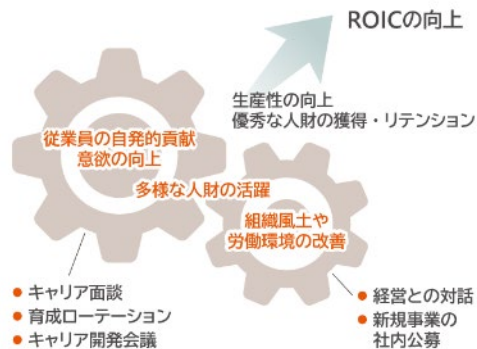
【2022年度の取り組み】

書類や掲示物、教育ツール等の多言語化が遅れている事業所
に対し、従業員が理解できる言語での対応を促し改善。

【2023年度の取り組み】

上記調査の継続と併せ、外国籍従業員へのアンケートやヒアリ
ングの実施を検討。

2030年のありたい姿の一つである「多様な人財の活躍」を実現するために従業員エンゲージメントサーベイを実施



「多様な人財の活躍」(定義)

様々な価値観を持った人が、自らの意思で能動的に業務を遂行し、各々の得意とする分野で力を発揮している状態。

Keyword

- 様々な価値観を持った人が集まる。
- バックカスティングを基本とした考え方を持つ。
- 自ら「ありたい姿」を描き、自律して業務を遂行できるようになる。
- 得意とする分野で力を発揮する。

【2022年度サーベイ結果】

強み

会社基盤

事業内容

▶ 具体的には…

- ・業界での影響力
- ・事業の優位性
- ・個性や能力の発揮

弱み

組織風土

理念戦略

▶ 具体的には…

- ・階層間の意思疎通
- ・理念の現場浸透度

エンゲージメント向上に向けた取り組み

インナーブランディング

2023年度はミッション浸透のための職場ミーティングを全部署に展開



部署長向けのワークショップ

経営との対話

社長と従業員の対話の場「One Table Meeting」



生産工場でのミーティング



これまで以上に変化への対応力を上げ、
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に
お届けするリーディングカンパニー
(Good Foods 2030)」

達成に向けて取り組んでまいります。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



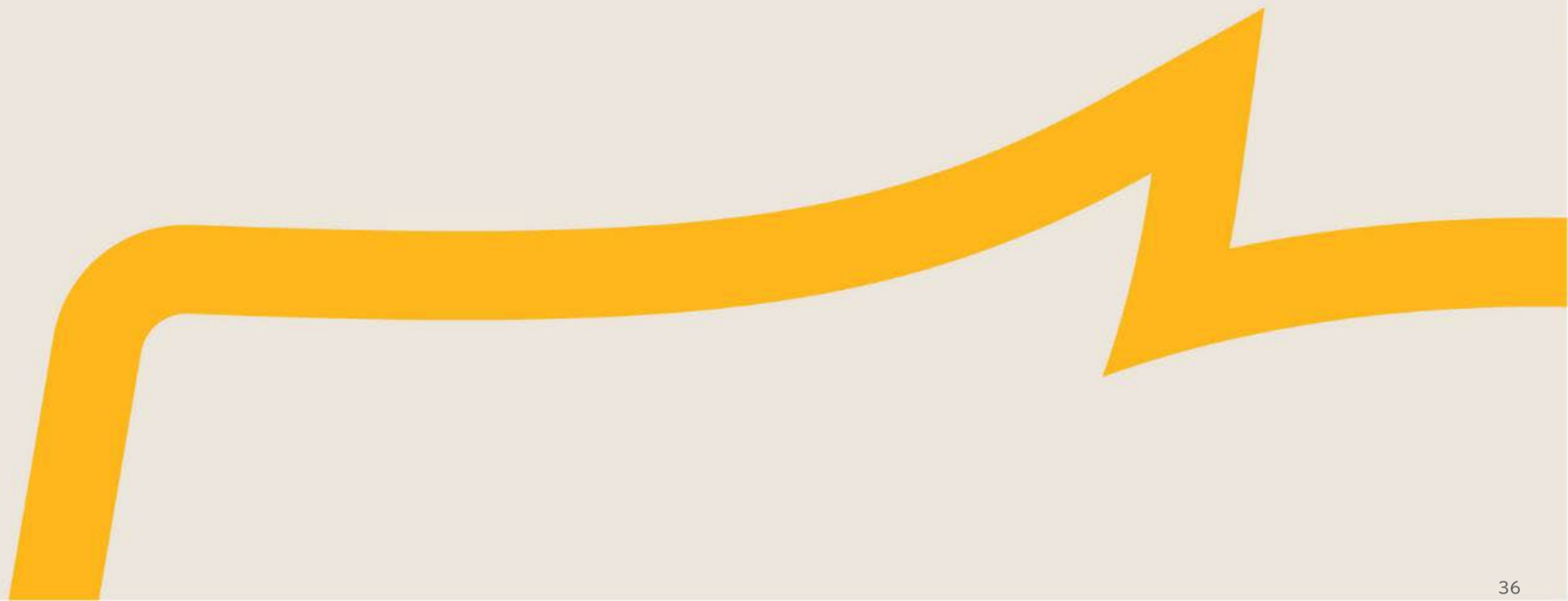
まだ見ぬ、食の力を。

株式会社ニッスイ
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課
03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

参考資料



2023年3月期 連結損益計算書(前期比)

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	6,936	7,681	744	
売上総利益	1,110	1,160	49	
販売費・一般管理費	840	915	75	
営業利益	270	244	▲ 25	
営業外収益	71	53	▲ 18	助成金収入▲14
営業外費用	18	20	1	
経常利益	323	277	▲ 45	
特別利益	22	67	44	関係会社株式売却益+34、投資有価証券売却益+16
特別損失	74	51	▲ 22	事故関連損失+10、関係会社整理損+5、減損損失▲36
税金等調整前当期純利益	271	292	21	
法人税等	81	78	▲ 3	
法人税等調整額	6	▲ 6	▲ 12	
当期純利益	183	220	36	
非支配株主に帰属する 当期純利益	10	7	▲ 2	
親会社株主に帰属する当期 純利益	172	212	39	

2023年3月期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート (連結調整前)

主要在外会社の 為替換算レート	2022年3月期 実績		2023年3月期 実績		前期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,348	1,486	1,458	1,921	110	435	122	313
EUR(百万ユーロ)	362	472	418	579	55	107	72	35
DKK(百万クローネ)	3,174	556	3,703	690	529	134	93	41
その他通貨	—	267	—	309	—	42	15	26
計		2,782		3,501		718	302	416

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは
第4四半期の平均

	2022年3月期 第4四半期	2023年3月期 第4四半期	変動率
米ドル(USD)	114.15 円	139.94 円	22.6%
ユーロ(EUR)	130.56 円	144.21 円	10.5%
デンマーククローネ (DKK)	17.56 円	19.39 円	10.4%

2023年3月期 セグメントマトリックス 売上高(前期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	2,377 (209)	606 (79)	346 (86)	69 (7)	758 (138)	4,158 (521)	▲874 (▲116)	3,283 (405)
	2,167	526	260	62	619	3,636	▲758	2,877
食品事業	2,443 (158)	966 (268)		88 (18)	659 (120)	4,157 (566)	▲337 (▲31)	3,820 (534)
	2,284	698		70	538	3,591	▲305	3,286
ファイン 事業	274 (▲90)			4 (▲0)		279 (▲91)	▲28 (1)	251 (▲89)
	365			5		370	▲30	340
物流事業	288 (3)					288 (3)	▲133 (▲6)	154 (▲2)
	284					284	▲126	157
その他 事業	246 (▲93)			1 (▲0)		247 (▲93)	▲75 (▲9)	171 (▲102)
	339			1		340	▲66	274
仮計	5,629 (188)	1,572 (348)	346 (86)	164 (25)	1,417 (258)	9,131 (907)		
	5,440	1,224	260	139	1,158	8,223		
連結調整	▲935 (▲79)	▲148 (0)	▲226 (▲56)	▲117 (▲17)	▲21 (▲9)		▲1,449 (▲162)	
	▲855	▲149	▲169	▲100	▲11		▲1,287	
連結 計	4,693 (108)	1,424 (348)	120 (30)	47 (7)	1,396 (249)			7,681 (744)
	4,585	1,075	90	39	1,146			6,936

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

2023年3月期 セグメントマトリックス 営業利益(前期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	117 (45)	17 (13)	27 (▲3)	2 (0)	21 (1)		186 (57)	▲1 (1)	185 (58)	5.7 (1.2)
	72	4	30	2	19		129	▲2	127	4.4
食品事業	42 (▲31)	31 (▲4)		5 (▲1)	35 (▲2)		115 (▲40)	▲1 (0)	114 (▲39)	3.0 (▲1.7)
	73	36		7	38		155	▲1	154	4.7
ファイン 事業	16 (▲23)			0 (▲0)			17 (▲23)	0 (0)	17 (▲23)	6.9 (▲5.0)
	39			1			40	▲0	40	11.9
物流事業	15 (▲4)						15 (▲4)	0 (0)	15 (▲4)	10.3 (▲2.6)
	20						20	0	20	12.9
その他 事業	8 (▲1)			0 (▲0)			8 (▲1)	▲0 (▲1)	7 (▲2)	4.4 (0.8)
	9			0			9	0	10	3.7
全社経費						▲96 (▲15)	▲96 (▲15)	0 (1)	▲95 (▲14)	
						▲80	▲80	▲0	▲81	
仮計	200 (▲15)	49 (8)	27 (▲3)	9 (▲1)	56 (▲0)	▲96 (▲15)	247 (▲27)			
	215	40	30	10	57	▲80	275			
連結調整	0 (0)	▲1 (▲2)	0 (3)	▲0 (▲0)	▲1 (1)	0 (▲0)		▲2 (1)		
	0	1	▲2	▲0	▲3	0		▲4		
連結 計	200 (▲14)	48 (5)	28 (0)	8 (▲1)	55 (0)	▲96 (▲15)			244 (▲25)	3.2 (▲0.7)
	215	42	28	10	54	▲80			270	3.9

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

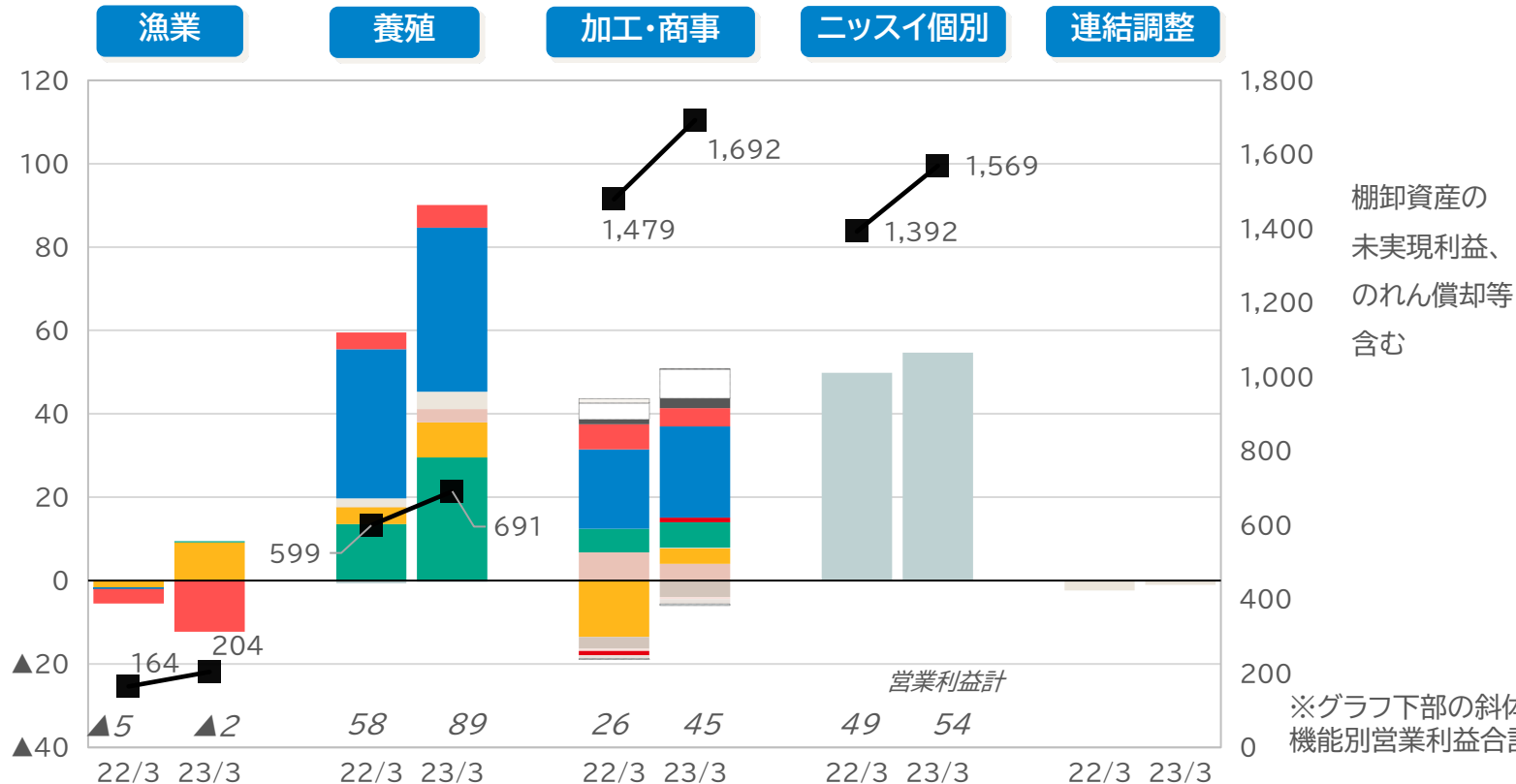
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

2023年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)

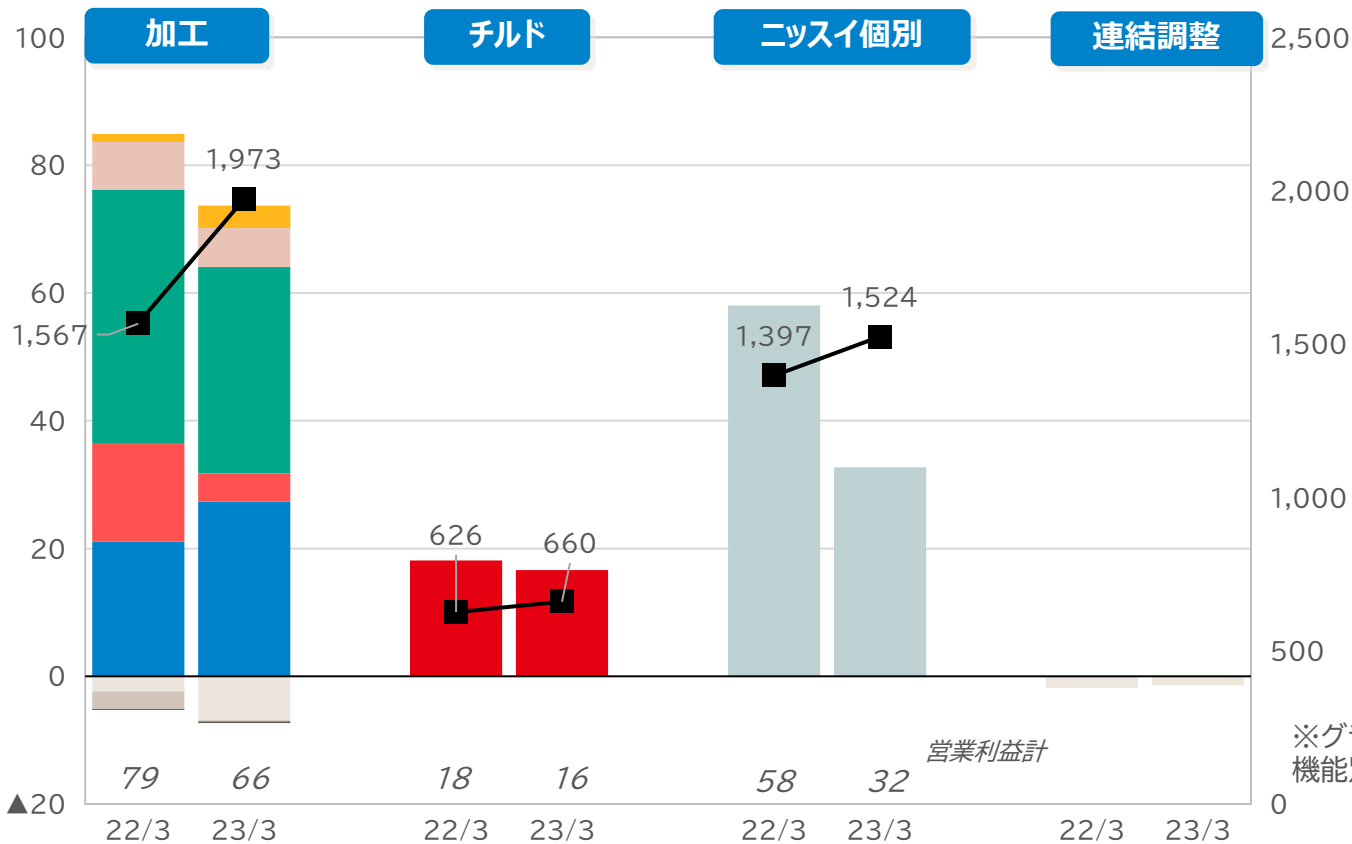


2023年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

営業利益(棒グラフ)

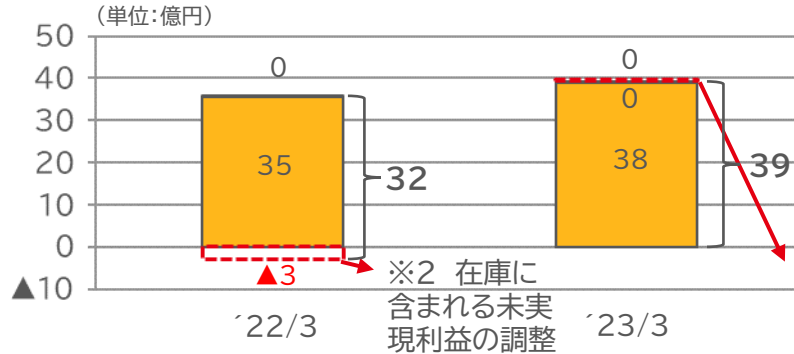
売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)



※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

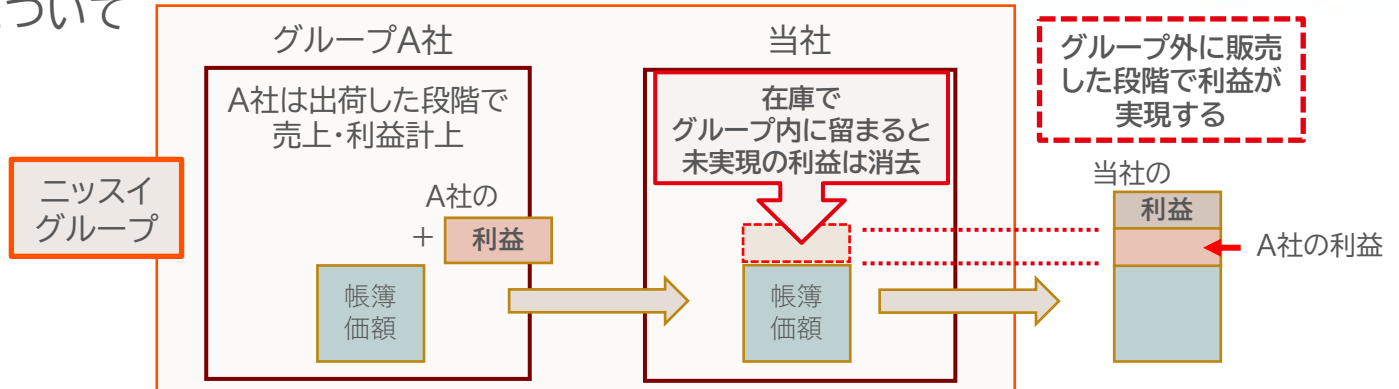
未実現利益を含めた南米養殖事業の利益は、約7億円の増益。



※1 生簀にいる出荷前の魚(在池魚)の想定利益



▶ 未実現利益について





まだ見ぬ、食の力を。